

## 第12期 社会教育委員の会議（第4回） 会議録

- 開催日時 令和元年9月27日（金） 午後2時～4時
- 会 場 水元総合スポーツセンター
- 出席委員 7人  
大島 英樹                      野川 春夫  
大畑 廣行                      竹高 京子  
長峰 政子                      鈴木 弥生  
熊谷 晴弘

- 報告者 2人  
オリンピック・パラリンピック担当課長                      野刈 広介  
生涯スポーツ課長    南部 剛
- 事務局職員 3人  
葛飾区教育委員会事務局参事, 生涯学習課長                      加納 清幸  
生涯学習課学び交流事業推進係長                                      伊藤 清美  
生涯学習課学び交流事業推進係主査（社会教育主事）              与儀 睦美
- オブザーバー 1人  
生涯スポーツ課事業係長    張替 武雄  
出席者 計13人

### 次第

- 1 施設見学
- 2 議事
  - (1) 葛飾区におけるオリンピック・パラリンピック関連事業について  
ア オリンピック・パラリンピック担当課  
イ 生涯スポーツ課  
ウ 生涯学習課
  - (2) 今後の会議日程について
  - (3) その他

### 【配付資料】

- 第3回会議録（案）
- 葛飾区におけるオリンピック・パラリンピック関連事業[資料1] [資料2] [資料3]
- 郷土と天文の博物館特別展「オリンピック・パラリンピックと葛飾」パンフレット
- 第12期社会教育委員の会議スケジュール（案） [資料4]
- かつしか区民大学情報誌 まなびぶらす Vol. 26
- 関連事業チラシ（スペシャリストから学ぶ！かつしか区民大学 夏の特別講座、プラネタリウム番組のご案内 Vol. 107、第64回葛飾区民文化祭、大人のがん教室、「区界&暗渠」で知る葛飾、能面づくり体験教室）

— 開会 —

○事務局 それでは、第4回 葛飾区社会教育委員の会議を始めます。

本日は、傍聴者はいらっしゃいません。

本日の資料の説明をいたします。

まず、次第がございます。

第3回の会議録の（案）を置いておりますが、修正点があれば10月10日までに修正、ご指摘の連絡をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

また、第2回の会議録について、ご指摘ありがとうございました。確定版は、来週中を目途に葛飾区の公式サイトに掲載いたしますので、ご覧いただければと思います。あるいは、紙で欲しいという方がいらっしゃいましたら、お送りします。

資料1は、オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組みについて、オリンピック・パラリンピック担当課の資料です。

資料2は、生涯スポーツ課の資料です。

資料3は、生涯学習課の事業のご紹介の資料です。

資料4は、スケジュールの案です。

そのほか、かつしか区民大学の情報誌「まなびぷらす」を初めとした、事業のチラシを机上配付しております。

資料は以上です。

それでは、この後の進行は大島議長によりしくお願いいたします。

## 2 議事

### (1) 葛飾区におけるオリンピック・パラリンピック関連事業について

○大島議長 それでは、皆さん、これから議事に入りたいと思います。

施設を見学させていただきましたが、今後の補助金交付に係る審議の役に立つと思います。

本日、葛飾区におけるオリンピック・パラリンピック関連事業について、三つの担当課からお話をいただく予定になっておりますが、十分時間をとって、きちんとお話を聞いたほうが良いと思いますので、場合によっては3番目の生涯学習課のお話については、次回に送らせていただくかもしれません、よろしいですか。

(異議なし)

○大島議長 ありがとうございます。

それでは、オリンピック・パラリンピック担当課からよろしくお願い致します。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 [資料1]のオリンピック・パラリンピック競技大会に向けた区の全体的な取組みについて、ご説明をさせていただきます。

「1 オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部の設置」です。葛飾区では、昨年5月、全庁的にオリンピック・パラリンピックに向けた取組みを進めていくために本部会を設置しています。本部長である区長と各部長、また関係課の課長が出席する会議で、全体的な進行、取組みについて審議し、進めているという状況です。

「2 区の取組方針」です。昨年6月に本部会において4つの取組方針を定めました。この方針に基づき、現在、オリンピック・パラリンピックに向けた取組みを区の中で進めています。

4つの取組方針は、

- (1) 東京2020大会を区民の記憶に残る大会とするため、聖火リレーやボランティア活動、キャンプ誘致活動など、区民が様々な場面で大会を実感できる機会を創出する。
- (2) 東京2020大会を契機に、障害の有無に関わらずスポーツを身近に親しめる環境を整備することで、区民の生涯スポーツの振興と健康の増進を図り、区民皆スポーツの実現を目指す。
- (3) 東京2020大会を契機に、葛飾区の強みである水辺や花、観光資源、文化芸術、下町人情などの魅力を発揮しつつ、積極的なPR活動を展開して国内外からの誘客を図り、さらなる地域の活性化を目指す。
- (4) 東京2020大会に向け、様々な大会関連情報の発信に努めるとともに、区民、自治町会、区内団体、商店街などと協働して大会を盛り上げる取組みを進め、気運の醸成を図る。

となっています。3番目以降で、それぞれの現在の取組みを紹介させていただきます。

「3 気運醸成に向けた取組み」として、多くの区民の皆さまが様々な機会を通じて大会を身近に感じることができるようイベントや取組みを実施しており、既に多くの皆様に参加いただいています。既存の事業もオリンピック・パラリンピックに関連づけることで、さまざまな形でオリンピック・パラリンピックに参加しているという実感を区民の皆さんに持っていただけるよう、取り組んでいるところです。

「4 葛飾区ゆかりアスリートの応援」は、オリンピック・パラリンピック出場を目指している区にゆかりのある選手の方たちを応援していこうというものです。区内在住のアスリートなどをゆかりのある選手として認定しており、現在15名ほどのアスリートが認定されています。

「5 スポーツクライミング施設の整備」についてです。スポーツクライミングは来年のオリンピックで初めて正式種目になりました。近年、日本人選手が活躍しており注目が高まっています。競技人口も近年急激に増えており、こういった機会を逃さず、また、オリンピック後も多くの方にスポーツを楽しんでもらうという目的で施設を整備します。クライミングは子どもから高齢の方まで多くの年代の方が楽しめるスポーツですので、新しいスポーツにチャレンジしていただける環境をつくっていきたくて考えております。完成は来年の4月ごろを予定しています。

オリンピックでは、スピード、リード、ボルダリングの3種目が行われますが、3種目が行える施設は、都内では昭島市に1件とオリンピック競技会場として青海に仮設で整備されるもの、それ以外は本区のものだけです。都内でも限られた施設になりますので、オリンピックの際に選手が練習できることを想定し、事前キャンプの誘致なども今取り組んでいるところです。

「6 特定非営利活動法人のブラインドサッカー協会との連携・協力に関する協定の締結」につ

いてです。9月5日に、日本ブラインドサッカー協会と協定を締結しました。ブラインドサッカーは、パラリンピックの正式種目で、来年、日本代表は初めてパラリンピックに出場します。現在、パラリンピックの事前キャンプを葛飾区で実施するという方向で調整を進めています。

パラリンピックを契機とした今後の障害者スポーツの振興のため、しっかりと連携をしていきたいというところから、事前キャンプの協定ではなく、より広く、障害者スポーツの振興を目的とした協力・連携の協定を締結したところです。

日本代表は、既に区内で何度も練習をしています。その中で、中学校や高校の生徒にボランティアにきていただいたこともありました。また、ブラインドサッカー協会では、ブラインドサッカーの体験を通じたダイバーシティ教育というプログラムを持っているため、それを区内の小中学校で広めていく検討も進めています。ブラインドサッカー協会と連携しながら、小学校・中学校等におけるダイバーシティ教育が一歩進めばということで、調整をしながら取り組んでいるところです。

「7 東京 2020 オリンピック競技大会公式練習会場の受入れについて」です。来年の7月14日から8月9日までの約1か月間、水元総合スポーツセンターが、バレーボールの公式練習会場で使用されることが決定しました。男女それぞれ12か国の代表チームが公式練習を実施します。

公式練習は、選手のセキュリティー等の観点から、一律、練習は非公開になっています。公安局テロ対策本部の方と話をする機会がありましたが、大規模な国際的なイベントでは、特に、テロ対策には力を入れているようです。組織委員会も、当然、選手が多く集まる場所は、しっかりと安全対策が求められており、一般区民と選手とのセキュリティーエリアをしっかりと区分して実施したいという意向を聞いています。そういった中で、どのような形で地域の皆さまと交流ができるのかということについて、この後、組織委員会と調整していきたいと考えています。

「8 花いっぱいでおもてなし」についてです。フラワーメリーゴーランド(立体花壇)を軸に、区内の活動が区外へ広がるような、また区内の活動を広く区外にPRする機会として、花いっぱいまちづくりの活動を推進しています。

「(1) 暑熱対策に向けた取組み」です。オリンピック・パラリンピックは真夏の期間であり、都も暑熱対策にも力を入れています。フラワーメリーゴーランドにミストをつけたものを開発し、それを暑熱対策の一環として活用できないかということで、組織委員会と調整をしています。

「(2) 景観向上及びおもてなし気運の醸成に向けた取組み」です。お台場など、大会関係地域に葛飾発のフラワーメリーゴーランドや壁型の立体花壇であるフラワーキャンバスを設置し、PRに取り組んでいます。

「9 東京 2020 オリンピック聖火リレー」です。葛飾区内での走行日は7月20日です。当日は葛飾区から始まり江戸川区、隅田区、荒川区の順に聖火リレーが行われます。詳細は、年末ごろに組織委員会から発表される予定です。

最後に、A3の資料ですが、10ページに東京都組織委員会の取組みを、11、12ページに区の取組みの概要を載せていますので、参考までにご覧ください。私からの説明は以上です。

**○大島議長** どうもありがとうございました。

非常にボリュームのあるお話を短時間の中でご説明いただきました。たくさんのお話をやられて

いるのだなというのを改めて感じています。

まずは、委員の皆様からご質問をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

私から、よろしいでしょうか。

先ほど、葛飾に大会に則して来てもらうように、というお話がありました。会場は区内にはないということでしたが、葛飾が通り道になるような計算があるのでしょうか。葛飾にわざわざ来るといことですね。オリンピックは動機にならないのではないのでしょうか。

**○オリンピック・パラリンピック担当課長** 観光客誘致という観点では、浅草などと違い、ターゲットを絞って葛飾の魅力をPRしていかなければ、なかなか誘客は難しいと観光課でも考えているところです。立地的に、例えば成田空港から京成線を使うというときにPRができれば、立ち寄っていただけるかもしれません。公式練習会場は地域への公開はできないという話ですが、練習に来ていただく選手の皆さんへのPRは当然できると思います。大々的には難しい部分もありますが、工夫しながら誘客をしていきたいと考えています。

**○大島議長** ありがとうございます。どこも来てほしいなと思っても、よほど目指すぞというものがない限りは……。

**○オリンピック・パラリンピック担当課長** 先ほどお話ししたスポーツライミング施設でも、例えば事前キャンプなどで各国の選手が利用することになれば、そのタイミングで葛飾の案内させていただくことで、選手を通じて母国に伝わる可能性もあります。

過去のオリンピックでは、その年の観光客よりも、その翌年以降に観光客が増加したというデータがありました。全世界で2週間、3週間の間、毎日毎日東京が放映されるため、それによるイメージアップやPR効果が期待できるのではないかと思います。

スポーツライミングでいえば、今年、世界選手権が八王子で行われましたが、来年も例えば八王子で行われるにしても、葛飾の施設で練習したことがあれば、その後、葛飾に立ち寄ってみようという人がいるかもしれません。そういった副次的な要素が観光の分野ではあると思うので、工夫しながらアプローチしていきたいと思います。

**○大島議長** ありがとうございます。

**○大畑委員** フラワーメリーゴーランド、すごくきれいでいいと思います。来年の大会するころには、また同じような形で設置していくのですか。

**○オリンピック・パラリンピック担当課長** フラワーメリーゴーランドは通年で設置しており、夏の花、冬の花など季節に応じて花が咲くよう工夫しています。

**○大畑委員** 区ではなく、お台場などに設置をずっと続けるのですか。

**○オリンピック・パラリンピック担当課長** 設置主体は、組織委員会や東京都、公園の管理者なのですが、公園の管理者が購入している場所などは継続的に設置されるのではないかと思います。

**○大畑委員** 葛飾独自のいいものだと思うので、これぞ葛飾という宣伝を組み込んだらどうですか。

**○オリンピック・パラリンピック担当課長** 「葛飾区」と入れられるかどうかは、IOCや組織委員会の規定があるため、テレビに映るような、例えば大会関係地域に会場に置くものに、「葛飾区」と入れられるかはまだ分からない状況です。

○大畑委員 「こち亀」でも、「寅さん」でも、イメージづけるには良いのではないのでしょうか。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 オリンピックはアンブッシュの関係が厳しく、スポンサー以外とタイアップすることは難しい状況です。フラワーメリーゴーランドは、葛飾区という公益性があるため、組織委員会としても受け入れやすいのではないかと思います。

○大畑委員 そうですね。ほかの所であんなの見ていないですから。自分たちは知っているから葛飾とわかるけど、ほかの人には何かそこに置いてある、きれいだなというだけで終わってしまう。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 現在、フラワーメリーゴーランドを日比谷公園にも設置しており、日比谷ガーデンショーなどで各都市の人が集まります。その中で、山口県宇部市から声が上がり購入いただいた実績もあります。ラグビーワールドカップが調布市の東京スタジアムで行われていますが、調布市も会場周辺に設置したいということで購入いただきました。葛飾区とわからなくても、ものとして評価されているという部分は、実感としてあると思います。

○大畑委員 それは感じますし、実際にいいと思いますが、せっかくなら、寅さんや両さんのような、葛飾区を連想させるような有名なキャラクターを使ったのをちょっと埋め込むと、ああ、葛飾に行ってみようかなとなるのかなと。

○大島議長 僕もそれは気になりました。什器や、花の生産者は葛飾の方なのでしょうか。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 区内に花を大量に生産するような所はありません。フラワーメリーゴーランドを新しく設置する場合、入札で区内の事業者から仕入れています。その事業者が区内の生花店から購入しているかという、そういうわけでもないというのが現状です。

○生涯スポーツ課長 また、メンテナンスに移っていくと、個々の管理者が花を植えます。

○大島議長 この本体は葛飾の工場で作っていますか。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 本体は葛飾区の工場で作っています。ベースになっている部分は、雨水タンクです。雨水貯留槽を作っている会社を中心になって、例えば電気の部分は何々電気さん、枠のところは何々金網さんと、区内の小さな業者と一緒に協力して作っている商品です。

○大島議長 そういう Made in Katsushika の品物にはプレートが必ずくっついているというのがデフォルトなのだとということにはなりますか。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 お台場海浜公園に設置しているものは、下に葛飾区のロゴが入っています。日比谷ガーデンショーでも葛飾区と入ったものを設置しています。ただし、ほかの方たちが直接購入する場合は、なかなか難しいと思います。区のPRとして活用している部分と、事業者が商売として行っている部分とで方法が異なっているというのが現状です。

○大島議長 ありがとうございます。

○大畑委員 これは今年行われたイベントだと思いますが、3番の2020大会のカウントダウンなどは、区民にどういう形で案内をして、どういう参加者が集まったのでしょうか。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 「広報かつしか」などで周知をしています。

○生涯スポーツ課長 「広報かつしか」やホームページ以外にポスターとチラシをつくり、各地域や学校を含めて掲示しました。

○大畑委員 参加人数はどれ程だったのでしょうか。

○生涯スポーツ課事業係長 3,700人ほどの参加がありました。

○大畑委員 こういうイベントをやるのは、そもそも2020に対する認知度を高めるためだと思います。だから、会場はなくても、東京という一つでまとまる大会に、葛飾でも参加してくださいよという気持ちを盛り上げる場所だと思います。このカウントダウンはどういう感じですか。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 カウントダウンは、もうすぐ1年ということで、全体のイベントの一部としてセレモニーを行いました。また、ミライトワとソメイティというオリンピック・パラリンピックの公式マスコットを呼び、撮影会を行いました。

○大畑委員 どこでやったのですか。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 奥戸の総合スポーツセンターです。

「花いっぱい」は、葛飾花いっぱいのまちづくり推進協議会、緑化推進協力員の方々のほか、農産高校の生徒にも参加いただく形で実施をしました。

○大畑委員 これは、区民の皆さんに宣伝したほうがいいですね。区の物語がありますよ。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 写真を撮る方がいても、それが葛飾区産だというのは、なかなか伝わりにくいのが現状です。

○大畑委員 そういったところをもう少しアピールして、オリンピック会場に飾られます、くらいの感じでやるといいと思います。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 やっている方は分かって、見ている方には、葛飾区産だということが伝わらないというお話ですよ。

○大畑委員 直接参加できなくても、葛飾の生産品が出れば、それも参加の一つだと思ってもらえると思います。

○オリンピック・パラリンピック担当課長 やっている方も、自分たちがオリンピックに参加しているという気持ちで取り組んでいただいています。これが広まれば、花に携わっていない方も葛飾区が参加しているというイメージを持ってもらえるとと思います。

○大畑委員 そうですね、はい。

○大島議長 皆さん、いかがでしょうか。

○野川副議長 大畑委員が言ったように、いわゆるPDCAがちゃんと回っているかどうかの確認です。いろいろなイベントをされていますが、ターゲットとされているのは誰なのか、何人ぐらい集めたいのか、どのような広報だったらその人たちのところに一番届きやすいのか、そういうチェックをした上でイベントをされているのか。大田区でも世田谷区でも目黒区も多分同じことをやっているのだと思います。同じことやっていて何の意味があるのだと問われたら、社会教育という観点からすると、これは何の目的なのだ？と、なってしまいます。

僕がとてもいいなと思ったのは、「NIPPON文化を体験しよう！」です。これは、おもしろいイベントになると思います。区内の在住外国人に向けた交流イベントということで、できれば子ど

もたちをまず誘い出して、親にも来てもらえれば地域の交流というのができると思います。日本のオリンピックのその後がどうだというよりも、葛飾に一番多く住んでいる外国籍の人たちに人気のある場所に並べておいてあげると見やすいのかなと思います。

例えば、ネパール人が多ければカバディをやってあげたりすると盛り上がるかもしれません。そのときによる日本文化と、これはとてもおもしろいなと思います。

1点、7ページの公式練習の会場の受入れ場所です。シャットアウトだと、何のメリットがあるのだ？と聞かれたら何と答えられますか？

**○生涯スポーツ課長** 自治体にとってのメリットを見つけることは難しいと思います。受け入れる意味としては、東京オリンピック 2020 大会をどう成功させるか、協力できるか、になります。

**○オリンピック・パラリンピック担当課長** 公式練習会場を受け入れた各区において、区民との交流はできないという広報を既に出しています。オリンピックを東京都として成功させるには、限られた地域で短時間に多くの競技を実施する必要があり、競技会場が足りないということは以前から言われているところです。開催都市の一員として大会を成功させるために協力して取り組みたいと考えています。そういった中で、区民にどのような還元ができるのか、例えば、練習は見られなくても、練習前後に交流ができないかなど、今後、組織委員会と交渉していくという状況です。

**○野川副議長** 区民からすると、例えばバレーボールをやるよといったら、こんな種目で、こんなアタッカーがいて、と知識や情報を集めた結果、バレーボールを見たい、やってみたいなど思わせるのが、社会教育の目的ではないかと思います。そうでなければ、スポーツが社会教育の中では入ってこないということになってしまいます。実物を見られなくても、どの国のチームが来て、どういう選手がいる、この人たちが体育館の中でやっているみたいだから胸がわくわくするでもいいと思います。また、ここでやっていたのだと、後から見に来て、それだけでもいいかもしれません。全くシャットアウトされていて、これはもう使えないのだよと言われた瞬間に、なにもソーシャライゼーションは起こらないのです。やっている意味が全くないのではと問われたときに、説明のしようがないと思います。

**○大島議長** 非公開とおっしゃった際に、きっとバスで送迎されるのだろうと思いました。練習が終わって、立石には寄ってもらえないのだなとか思うわけです。そうすると、何か狙いとずれてしまう。もちろん大きな中の個という意味があるにしても、個と葛飾というものを見たときには、何かもったいないなと思います。

**○大畑委員** 甘えてはいけませんが、世田谷区がアメリカのチームを受け入れるって言って、今大改装をしています。誰も見られません。テロなどで危ないから。逆にあんなにやって、世田谷区の人には意味がないのではなかろうかと、思わず言いそうになってしまいます。セキュリティーが厳し過ぎて。順天堂大学でもアメリカの陸上をグラウンドでやるので、大変です。

**○オリンピック・パラリンピック担当課長** ラグビーワールドカップでも、公式練習の際に全てシ



ャットアウトとなり直接何もできないという声はありました。しかし、それをきっかけに、例えば各学校で応援する国を決めてその国の文化を学ぼうなど間接的な取組みを行っている事例もあります。

○大畑委員 大丈夫なのでしょうか、1校1国に縛ってしまうのは。

○竹高委員 食育や社会性というか、そういうことを守ることにもなるので、子どもたちにとってはいい刺激になると思います。1国に決めてしまうのはどうかなという疑問はあります。それが毎週、例えば食育の中で、給食に出た食材が取れる国はこんな国だと学習していくのは、小学校ではかなり定着していると思います。いいことだと思っています。

○野川副議長 1964 東京オリンピックでは、参加国がいろいろな木を持ってきてくれて、植林してくれたそうです。同じようなことが今回もできないかと考えているそうです。例えばさっきの花がありますけれども、それぞれの国の花を持ってきてオリンピックをやるというのも一つだと思います、教育的に。それが 1964 年に起きたこと、歴史をひも解くとおもしろいかもかもしれません。

○大畑委員 少しオリンピックとは離れてしまいますけれども、スポーツクライミングの施設が来年でき上るわけですが、オープニングはそれなりの人呼んで盛大にやると思います。この管理と運営はどういう形になるのですか。例えばインストラクターみたいなものを置いて指導を行うのか、グループに全部貸し出すのか、個人個人に自由にやらせるのか。

○生涯スポーツ課長 基本は個人利用になりますが、当然、管理者を複数人設置して安全管理し運営していきます。団体利用も、申込みがあればお受けします。リード・スピード競技は壁の高さが 16 メートル程ありますので、特に、危険を伴います。しっかりと利用者の講習会を行い、講習会で認定を受けた者が利用をする形をとってまいります。そのような講習会も行え、安全に登ることを教えることができるインストラクターを用意していきます。

○大畑委員 ボルダリングは高さがあるわけじゃないし、危険性も少ない方です。しかし、例えば子どもが下にいて、上から誰か落ちてきたら危ないから、そういったところの管理も当然やらなくてはいけないと思います。東京オリンピックでもやる競技で、葛飾区で新しくつくったオリンピック参加のものだと思うので、大々的なオープニングをすることがいいという気がしますね。

○生涯スポーツ課長 日本山岳クライミング協会や東京都山岳連盟にも相談をしているところですが、東京都内 23 区内で初めてとなるリード、スピード、ボルダリングを 1 か所でできる施設なので、何とか大規模な大会を行えないかということで、考えています。

○大畑委員 ほかの練習を見られない状況で、ボルダリングに対して参加をしたということで、そういう意味で、区民のオリンピックに対する見方も注目させられるのかと思います。

○生涯スポーツ課長 あそこに行けばできるというような施設になればと思います。大規模な大会を 1 回で終わらせるのではなく、できれば毎年行うようにしていけば、大会が行われましたということで葛飾区の名前がニュースなどで出ていく。葛飾区に行けばこの競技ができるということで、

利用者も増やせればと考えています。

**○竹高委員** ボルタリングの施設ができることは、すごくいいことだろうと思いますが、海外の方がすごく注目しているのは日暮里だったりします。京成線をお使いになって日暮里に来るまでに、葛飾区内では、急行は青砥、高砂に止まります。2020、その先に向けても外国人観光客の誘致などを考えるのであれば、青砥や高砂をアピールの拠点にできないのかなと思います。その部分に力を入れるというふうには、葛飾区では考えてはいらっしゃるのかなというのが少し疑問です。

もう一つは、リリオ亀有のリノベーションが、オリンピック・パラリンピック、地域の活性化、絵本や漫画の寺子屋、そういうものにもポイントを当てて、外国人の方にも楽しんでいけるような形に活性化させていこうというニュアンスのページがたくさんありました。そういうのを見たときに、それはすごくいいことだなと思いましたが、リノベーションが少し中途半端に見えました。オリンピック・パラリンピックを踏まえて、その先に行く社会教育につながるような形にするには、もう少し方向性をはっきりとさせたほうが良いのかなと思います。あと広報があまりにも足りないというふうに感じたので、オリンピック・パラリンピックに対しても含めて、どうお考えになっているのでしょうか。

**○オリンピック・パラリンピック担当課長** 青砥、高砂に観光・誘客の視点を向けることについては、観光資源に課題があるため、クライミング施設、柴又など区の観光のスポットと連携していく必要があります。現在、新たに青砥に観光資源として何かつくるといような取り組みは行っていません。アクセスのしやすさは、重要な部分ですが、新しく何かをつくるのではなく、既存の資源にアプローチをする視点で進めています。

**○竹高委員** アピールの仕方なのかなと思います。例えば「かつしか郷土かるた」にあるものが、葛飾区内に、この駅からこうアクセスできるというような情報が英語でポスターが張られていたら、海外の人が日暮里で乗りかえ、青砥、高砂を使ったときに、こういう場所があるのだよという、そのアピールの仕方といいですか、例えば英語でわかるものがあるとか、そういうことも大事だと思います。

**○野川副議長** アプリにすれば、海外にも簡単に配信できると思います。

**○竹高委員** それもそうですね。葛飾区の魅力は、新たにボルタリングの施設ができることもすごくいいことですが、昔からある場所のアピールの仕方を、もう少し考えていっていただきたいなと思います。質問ではなく、希望です。

**○オリンピック・パラリンピック担当課長** 広報の仕方など、オリ・パラに向けて工夫が必要であるということについては、所管にも申し伝えます

**○大島議長** ありがとうございます。この会議は、決して大きなお金を持っているものでないからこそ、ユーザーとしての区民がどう知恵を使って楽しいまちにできるか、あるいは魅力的に思ってもらえるまちになるかなというところにエネルギーをかけたいと思っているところですから、今のご

意見のようなことが、とても強い思いとして受け取っていただけるといいなと思います。

今回で勉強会は3回になりました。2回目まで勉強してきたことも、そういう意味でオリンピックというようなことは、束ねていくものとしてはとても有効でも、それを束ねる人間にしかかなか見られないことが多いのではないかと。1個1個の取組みに位置づいた人間は、そこはわかるけど全体像を見ることができる人は、そう多くないなという実感があります。だから、それをもっともっと感じられるように、葛飾っていろいろあるね、四つ木といえばサッカーなのだなとか、そういうものが一度に見られたら、とてもアピールできるでしょう。僕ら決して力もお金もなくとも、こうなったらいいなと思えるから、学びながら、オリンピックが終わっても魅力ある葛飾になるように、そういうことがこの会議の使命でもありますので、いろいろな思いをこれからももっとお伝えしたいと思いますし、聞いていただけたらなと思います。

**○生涯スポーツ課長** では、私からご説明いたします。

**○大島議長** 生涯スポーツ課のお話を、短時間で済ませるのはあんまりだなという気がしております。生涯学習課のお話も時間とれませんので、申しわけありませんが、次回ご報告いただければと思います。

本日、ご報告は3つの部署からいただく予定のところ、オリンピック・パラリンピック担当課からのみということになりましたが、継続して区の取組みについて、しっかり学んでいきたいと思っております。議事の(1)は、ここまででしたいと思っております。ありがとうございました。

**○生涯学習課長** 最初に野川副議長からお話があった、練習をやった国が木を植えたということは、使えるなと思えました。これは組織委員会との話になりますが、水元の総合スポーツセンターの体育館で、バレーボールのチーム、何チーム来るかわからないですが、5チーム、6チーム来たら、木を植えてくれないかとか、国旗に皆さんのサインをもらえないか。それが区民の財産になるか、レガシーになるかということ、もしかすると行政の自己満足になってしまうのかもしれませんが、教育委員会などで検討していきたいと思っています。

竹高委員が言った、リリオのリノベーション、ミッカのお話、民間ベースの図書館的なものができましたが、子どもに特化していいのだろうかと思っていました。しかし、実際には竹高委員のようなご意見もあるのだなと、行政としても真摯に受けとめたいと思っています。

私たちが考えている「レガシー」というのは人それぞれで違うので、なかなか結論を出すのが難しいと思いますが、大島議長がおっしゃったように、ここはいろいろなことを話して、意見を出し合ってもらえる場なので、とてもありがたいと思っています。そのまま続けていただければ、教育委員会としては大変助かります。

**○大島議長** 本当に皆さん、それぞれのアイデアがあって、決まった落としどころがあるという話ではないと思います。迷走するかもしれませんが、一緒におつき合いいただけたら、きっとこの期が終わるときに一つの点にたどり着けるのではないかと思います。

## (2) 今後の会議日程

今後のスケジュールは次のとおり決定した。

ア 10月25日午後3時から、本庁舎で第5回会議を開催する。

議題は、生涯スポーツ課及び生涯学習課の事業についての説明とする。

イ 11月15日午後2時から、本庁舎で第6回会議を開催する。

議題は、調整がつくようであれば東京都の事業についての説明とする。

## (3) その他

○大島議長 では、「その他」ですが、何かございましたらお願いいたします。

○事務局 先日、野川副議長に前回紹介いただいた「東京都オープンデータ アイディアソンキャラバン2019」に参加しましたが、会場には野川副議長もいらっしゃいました。観光がテーマで、23区の職員や民間の方が参加していました。班に分かれて、KJ法に似た手法を使ってアイデアを出し切るということをやりました。中野区、文京区、大田区の観光についてレクチャーを受けて、もっとこういうアイデアがあるのではないかとということをやってみました。同時に、スマートフォンやパソコンでデータを調べながら、どんどん新しいアイデアを出して行って、それで最後に班ごとに発表しました。

○野川副議長 オープンデータによる根拠に基づいて考えていこうというものです。それで、さっきもアプリと言ったのは、今はテレビよりもスマートフォンなので、誰もが使えるアプリをつくらうかどうか。非常時用に防災に関するアプリはありますよね。では、平常時は観光に使えるようなことができるようなアプリをつくれませんか。それを東京全体ではなくて区ごとにやればおもしろいのではないかと思います。民間企業も、実は一緒にやりたいのです。だから、アイデアがあれば、業者がついてきます。そして葛飾区には寅さんもあるし、いろいろありますよね。これと水元公園を使って何かできるか。アイデアを出し切りながら、おもしろいものを外国語にして、アニメを入れるなどしたら、もっと魅力的なアプリが作れるかもしれないというような感じでした。

○長峰委員 私は羽田をよく使いますが、スーツケースをいっぱい持っている人が歩いています。あのスーツケースを預かって観光してもらおうというのが、大事な感じがします。手軽に身軽にというのが、青砥駅などでできれば。

○竹高委員 観光地の京都、大阪などは、必ずスーツケースが入るロッカーもありますし、荷物を預かってくれる場所が日本人向けにも外国人の方向けにもあります。それはもう絶対必要です。

○野川副議長 ただ、この間のG20の時のように、セキュリティーのために全部シャットアウトさ

れてしまうでしょう。だから、一番困ったのは、成田から関西空港のほうに荷物を送って、そこからアメリカに行きたいと言っても、全く預かってくれなかったそうです。だから、そういう情報もちゃんと流せばいいと思います。私は、代々木にいますが、隠れ民泊がとても多いです。

○竹高委員 葛飾も結構隠れ民泊が多いです。

○野川副議長 別の言い方をすると、ビジネスになりやすいのです。それをどうつくるかです。しかし、誰にも聞けないから、みんなアプリに頼るわけです。考えましょう、将来のことを。

私の協会が出している『スポーツクラブライフ』という広報がありますので、ご参考までにお配りいただけたらと思います。

○大島議長 ありがとうございます。間もなく時間となりますので、本日の会議はこれで区切りにしたいと思います。

— 閉会 —